

	年		組		番		名前
--	---	--	---	--	---	--	----

教材 1 - G - (1) 古代から中世までの文化史

次の(ア)～(セ)の間に答えなさい。

(ア) 飛鳥文化にもっとも関係の深いものを、下の①～④の中から1つ選び、番号で答えなさい。

- | | |
|---|--|
| ① 広隆寺弥勒菩薩像
<small>こうりゅうじみろくぼさつ</small> | ② 東大寺南大門金剛力士像
<small>とうだいじ こんごうりきし</small> |
| ③ 唐招提寺鑑真和上像
<small>とうしょうだいじ がんじんわじょう</small> | ④ 平等院鳳凰堂阿弥陀如来像
<small>びょうどういんほうおうどう あみだにょらい</small> |

(イ) 飛鳥文化にもっとも関係の深い寺院を、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 平等院 ② 東大寺 ③ 法隆寺 ④ 唐招提寺

(ウ) 天平文化にもっとも関係の深い人物を、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 聖徳太子
しょうとくたいし ② 藤原道長
ふじわらのみちなが ③ 蘇我馬子
そがのうまこ ④ 聖武天皇
しょうむ

(エ) 天平文化の作品で和歌を集めたものを、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 日本書紀 ② 古事記 ③ 万葉集 ④ 風土記
ふどき

(オ) 奈良時代の仏教の様子にあてはまるものを、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 仏教の力で国を守ろうとして、国ごとに国分寺・国分尼寺を建てた。
こくぶんにし
- ② 末法思想の流行から阿弥陀如来の信仰が貴族の間で広がった。
まっぽう
- ③ 真言宗や天台宗などの密教が受け入れられ、山間で厳しい修行を積んだ。
しんごんしゅう てんだいしゅう みつきょう しゅぎょう
- ④ 仏教を受け入れるかどうかで豪族間で争いがおき、蘇我氏が勝利した。

(カ) 藤原氏が政治の中心だった頃の仏教の様子にもっともあてはまるものを、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 仏教の力で国を守ろうとして、国ごとに国分寺・国分尼寺を建てた。
- ② 末法思想の流行から阿弥陀如来の信仰が貴族の間で広がった。
- ③ 真言宗や天台宗などの密教が受け入れられ、山間で厳しい修行を積んだ。
- ④ 仏教を受け入れるかどうかで豪族間で争いがおき、蘇我氏が勝利した。

(キ) 平安時代の頃の文化で「源氏物語」にもっとも関係の深い人物を、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 紀貫之 ② 清少納言 ③ 紫式部 ④ 最澄

(ク) 古墳時代に伝えられたものとしてあてはまらないものを、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 仏教 ② かな文字 ③ 儒教 ④ 漢字

(ケ) 平安時代のものとしてあてはまるものを、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 法隆寺五重塔 ② 東大寺大仏 ③ 東大寺正倉院 ④ 平等院鳳凰堂

(コ) 次の〔 〕に最も関係の深いものを、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

〔から衣 すそに取りつき 泣く子らを 置きてぞ来ぬや 母なしにして
(防人の歌)〕

- ① 日本書紀 ② 古事記 ③ 万葉集 ④ 風土記

(サ) 平安時代に活躍した人物にあてはまるものを、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 紀貫之 ② 鴨長明 ③ 藤原定家 ④ 運慶

(シ) 鎌倉時代のものにあてはまるものを、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 古今和歌集 ② 源氏物語 ③ 枕草子 ④ 徒然草

(ス) 室町時代の頃に完成し今日にも影響を与えているものとして、あてはまらないものを、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 水墨画 ② 書院造り ③ 歌舞伎 ④ 狂言

(セ) 鎌倉時代に成立した浄土宗の開祖にあてはまるものを、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 親鸞 ② 一遍 ③ 法然 ④ 道元

年 組 番 名前

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)

(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)

(サ)	(シ)	(ス)	(セ)

年 組 番 名前

教材 1 - G - (2) 古代から中世までの文化史 (作業)

下の空欄にあてはまるものを入れて、古代、中世の文化についてまとめましょう。

	飛鳥文化	天平文化	国風文化	鎌倉文化	室町文化
特徴	・仏教を中心とする ・中国、朝鮮、西アジアの影響	・仏教の力で国を守ろう ・国際色豊か	・日本の風土や生活に沿った独特の文化、貴族中心	・武士の素朴で力強い雰囲気	・公家と武家の文化が混ざる ・禅宗の影響 ・現代につながるもの
人物	・推古天皇 ・聖徳太子	・聖武天皇	・藤原氏などの貴族	・公家や僧を中心とした伝統の上に武士や民衆にも分かりやすいものに	武士中心
建造物・仏像等					
書籍・文学		歴史書 「 <input type="text"/> 」 「 <input type="text"/> 」 和歌集「 <input type="text"/> 」 地方を描く「 <input type="text"/> 」	・女性による文学 「 <input type="text"/> 」清少納言 「 <input type="text"/> 」紫式部 和歌集「 <input type="text"/> 」 「 <input type="text"/> 」紀貫之	「平家物語」(<input type="text"/>) 和歌集「 <input type="text"/> 」 随筆(<input type="text"/>) 「 <input type="text"/> 」 (<input type="text"/>) 「 <input type="text"/> 」	お伽草子(<input type="text"/>)(<input type="text"/>)
その他			・かな文字 ・貴族の住居(<input type="text"/>)造り	鎌倉仏教	能(<input type="text"/>)(<input type="text"/>)親子 水墨画(<input type="text"/>)

・建造物や仏像などは必ず教科書や資料集の写真等で確認をしておきましょう。
 ・文化もその当時の政治や海外との関係、文化を担う人々の階層によって大きく変わります。教材1～5も復習しよう。